

令和 2 年度における観光振興の取組みについて

1. 現状

(1) 着実に増加していた宿泊者数は激減し、インバウンドの早期回復は困難な状況

- ・ 2019 年の本県の延べ宿泊者数は対前年比 2 割、旅行消費額は対前年比 1 割で増加
- ・ しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、本県への宿泊者数は大幅に減少し、特に外国人は入国制限等により皆減に近い状況

[資料 1 - 3 参照]

- ・ そのため、本県の旅行消費額の 8 割を占める日本人の観光需要回復が喫緊の課題

(2) コロナ社会における観光ニーズが変化

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、来訪先における感染対策の実施へのニーズが高まるなど、旅行者の安全、安心を求める意識が向上
- ・ 3 密を避ける観点から、近場で自然豊かな地方部での観光や少人数での観光など、旅のスタイルが変化している状況

2. 令和 2 年度における取組方針

- (1) 感染防止対策の徹底、衛生情報の発信
- (2) デジタルプロモーションの加速化
- (3) 観光振興回復のカギを握る「日本人の国内旅行」を喚起

※インバウンド誘客に向けた取組みの考え方

- ・ 国の入国規制が緩和され、国際直行便が再開された国・地域を中心にデジタルプロモーションを実施
- ・ リアルなプロモーションについては、感染の収束状況を注視しつつ、その事業効果を見極めながら取組む